

アライアンス・バーン斯坦・米国成長株投信

Aコース（為替ヘッジあり）／Bコース（為替ヘッジなし）

Cコース毎月決算型（為替ヘッジあり）予想分配金提示型

Dコース毎月決算型（為替ヘッジなし）予想分配金提示型

Eコース隔月決算型（為替ヘッジなし）予想分配金提示型

追加型投信／海外／株式

特別レポート



2026年 米国株式市場の見通しと投資方針

緩和的な金融政策と企業の堅調な利益成長が株価上昇をけん引する見込み

概要

- 2025年の米国株式市場は、4月に相互関税ショックで大幅調整するも、AI関連企業の堅調な業績や利下げ期待から上昇し、史上最高値を更新する展開
- 2026年の米国経済は、緩和的な金融政策やAI設備投資がドライバーとなり成長率は反転するとみている
- 米国株式市場は、利下げや堅調な企業の利益成長予想を背景に上昇基調となる見込み。注目セクターは割安かつAI導入による収益性向上が見込まれるヘルスケア
- 利下げはAI関連銘柄以外の利益成長も加速させる可能性があり、物色対象は拡大すると想定されることから、優勝劣敗を見極め“持続的な成長企業”に厳選投資を行う当ファンドの優位性が高まるとみる



2025年の米国株式市場の振り返り：

相互関税ショックで大幅調整するも、AI関連企業の堅調な業績や利下げ期待から上昇

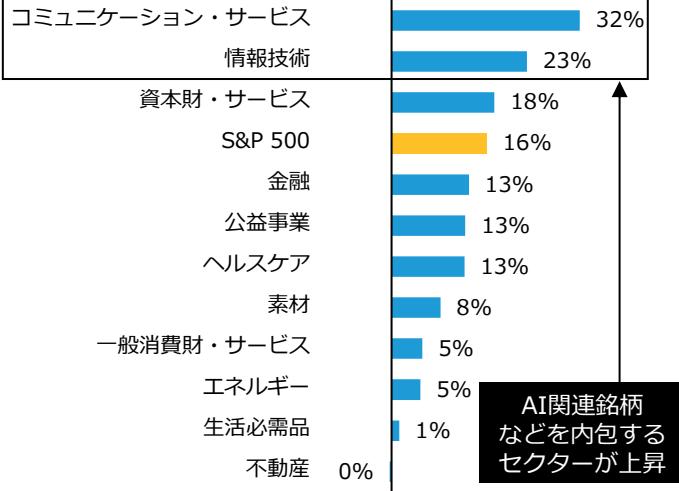
- 2025年の米国株式市場はS&P 500株価指数で年初来+16%上昇し、6,800ポイントを超える最高値圏で着地しました。（12月31日現在／米ドルベース）。4月にはトランプ大統領が大規模な相互関税を発表したことで大幅調整する局面はあったものの、各国との関税交渉の進展などを受けて反転すると、その後はAI関連企業の好調な業績や、雇用指標が弱含んだことによる利下げ期待の高まりなどを受け、堅調に推移しました。
- セクター別リターンに目を向けると、2025年の株価上昇をけん引したのは、1年を通じて株価の上昇が際立ったアルファベットなどを含むコミュニケーション・サービスセクターや、エヌビディアを始めとするAI関連銘柄などの成長株を多く内包する情報技術セクターでした。こうしたなか、2025年末におけるS&P 500株価指数に占めるマグニフィセント・セブン（M7※）の割合は35%と、2024年末の33%から上昇し、一部銘柄への集中度が高い市場環境が継続しました。

※アップル、マイクロソフト、アルファベット、亚马逊・ドット・コム、メタ・プラットフォームズ、エヌビディア、テスラの7銘柄を指します。

2025年：S&P 500株価指数の推移



2025年：S&P 500株価指数セクター別リターン



期間：2024年12月31日～2025年12月31日。米ドルベース、配当なし。出所：ブルームバーグ、アライアンス・バーン斯坦（以下、「AB」）。アライアンス・バーン斯坦・エル・ピーとその傘下の関連会社を含みます。アライアンス・バーン斯坦株式会社は、ABの日本拠点です。)

過去の実績や分析は将来の成果等を示唆・保証するものではありません。予想は今後変更される可能性があります。記載の個別の銘柄・企業については、あくまで説明のための例示であり、いかなる個別銘柄の売買等を推奨するものではありません。また組入れを示唆・保証するものではありません。

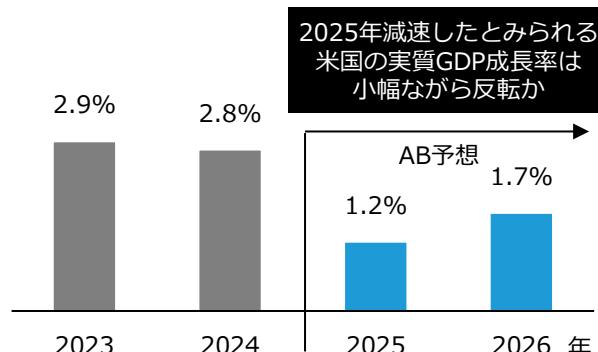


2026年の米国経済の見通し：

緩和的な金融政策とAI設備投資が経済成長のドライバーに

- ABでは、貿易摩擦の影響や労働市場の軟化などを背景に、2025年の米国経済は潜在成長率を下回る水準まで減速したとみているものの、2026年は小幅ながら反転に向かうと予想しています。
- その背景の一つは、労働市場の軟化を受けた米連邦準備制度理事会（FRB）による金融緩和の継続です。ABでは2026年に4回の利下げを見込んでおり（2025年12月末現在）、この緩和的な金融政策が景気循環を好転させるものと想定しています。
- また、2025年に米国経済を支えてきたAI設備投資が引き続き経済成長のドライバーとなるとみており、米国経済は底堅く推移すると見込んでいます。

米国の実質GDP成長率の推移およびAB予想



AB予想は2025年12月現在の予想。出所：国際通貨基金（IMF）、AB



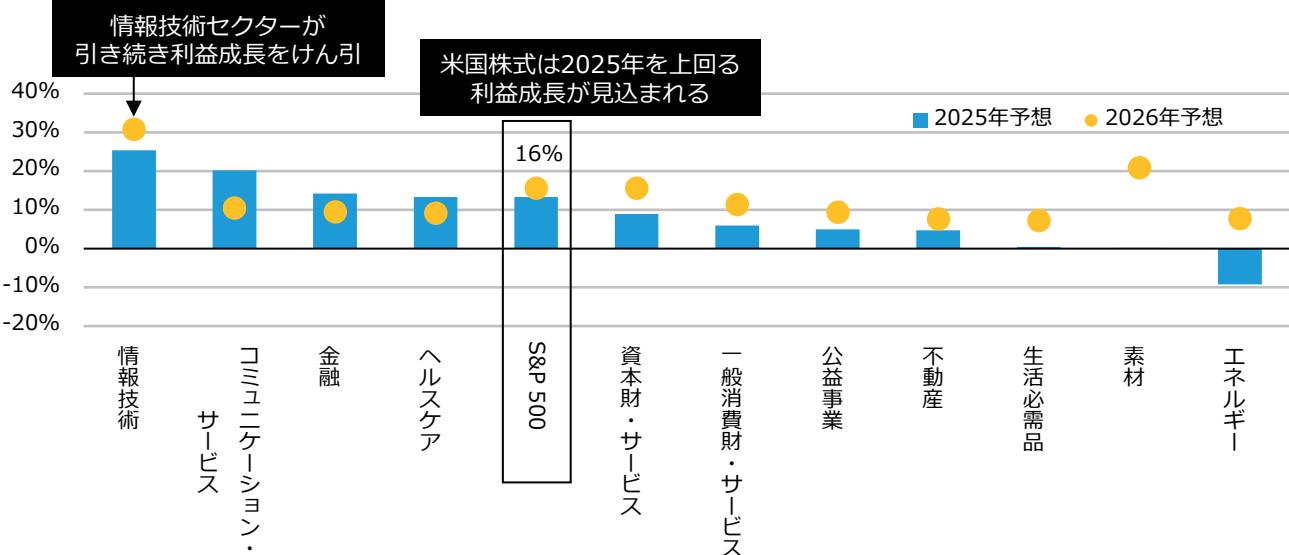
2026年の米国株式市場の見通し：

企業の利益拡大が株価上昇をけん引する見込み

株式市場全体の見通し：

- 2023年以降の上昇相場で米国株式の予想株価収益率（PER）は拡大してきたものの、ABでは引き続き緩和的な金融政策が継続すると想定していることから、その縮小圧力は限定的と見込んでいます。こうしたなか、S&P 500における2026年の市場コンセンサス予想1株当たり利益（EPS）成長率は+16%（前年比）と、2025年の+13%を上回ることが予想されており、EPSの拡大が株価上昇をけん引するとしています。
- AI設備投資が今後も活況を呈することを踏まえると、株式市場のけん引役は2026年も引き続きAI関連銘柄などの成長株と想定しています。S&P 500におけるセクター別のコンセンサス予想EPS成長率に目を向けると、情報技術セクターの利益成長率は高水準であった2025年を上回り、さらに加速することが見込まれています。
- ただし、利下げは情報技術セクター以外の利益成長も加速させる可能性があります。こうした環境下では、ここ数年みられたM7をはじめとする一部銘柄へ過剰な集中は解消に向かうことも想定されることから、物色対象が広がることや、M7などのメガキャップから相対的にサイズの小さい銘柄に資金がシフトすることも考えられます。したがって、成長株については楽観的ながらも一部慎重にみています。

S&P 500株価指数のセクター別予想EPS成長率（2025年および2026年）



LSEGによる2026年1月2日時点のコンセンサス予想。出所：LSEG、AB

過去の実績や分析は将来の成果等を示唆・保証するものではありません。予想は今後変更される可能性があります。記載の個別の銘柄・企業については、あくまで説明のための例示であり、いかなる個別銘柄の売買等を推奨するものではありません。また組入れを示唆・保証するものではありません。

緩和的な金融政策と企業の堅調な利益成長が株価上昇をけん引する見込み

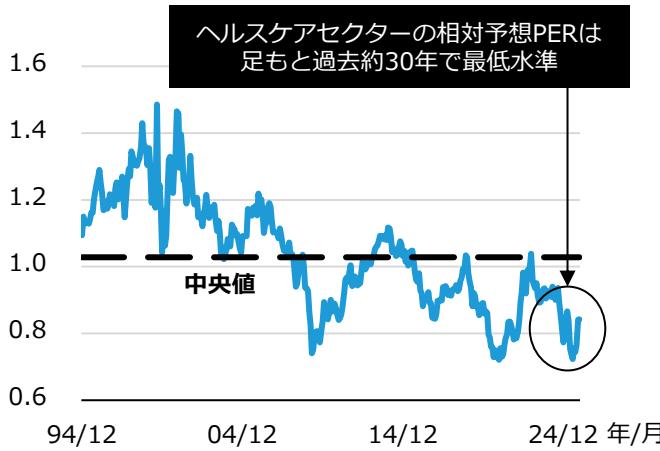
リスクシナリオ：AI設備投資の収益化が市場の高い期待に応えられなかったケースでのリスクオフ

- ・ハイパースケーラー（大規模なデータセンターを有するクラウドサービス事業者）をはじめとするAI関連銘柄の設備投資による収益化が、市場の高い期待に応えられなかつた場合には、市場参加者のセンチメントが急速にリスクオフへと傾斜し、株式市場の下落圧力となる可能性があります。
- ・また、このようなケースでは、足もと資産効果がけん引してきた高所得層の消費にも水を差す可能性があり、実体経済にも影響を与えることが想定されます。

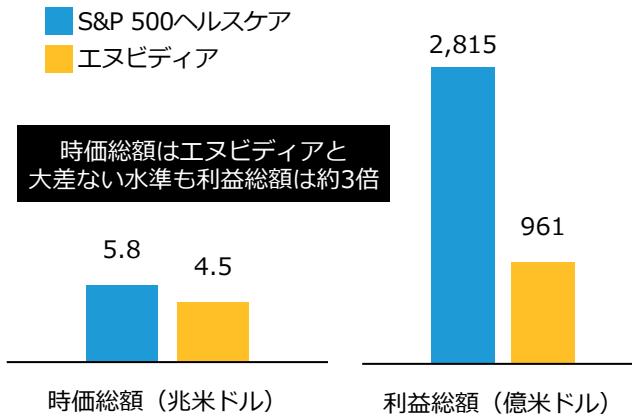
注目セクター：割安かつAI導入による収益性改善が期待できるヘルスケアセクターに注目

- ・ヘルスケアセクターはここ数年、M7やAI関連銘柄へ資金が集中してきたことや、トランプ政権による薬価引き下げや保険制度改革などの政策リスクが意識されたことで、相対的に大きくアンダーパフォームしています。実際に、S&P 500ヘルスケアセクター指数のS&P 500株価指数に対する相対予想PERに目を向けると、足もと過去約30年で最低の水準となっています。
- ・こうしたなか、過去数年にわたり相対的に劣後してきたヘルスケアセクター全60銘柄の時価総額合計は2025年12月末現在で5.8兆米ドルとなっていますが、これはセクター全体でエヌビディア1社の4.5兆米ドルと大差ない水準です。その一方で、利益総額はエヌビディアの約3倍であることを踏まえると、ここ数年はファンダメンタルズが軽視された歪んだ相場展開であったといえます。

S&P 500ヘルスケアセクターのS&P 500に対する相対予想PERの推移*



ヘルスケアセクターとエヌビディアの時価総額および利益総額の比較**



* 期間：1994年12月末～2025年12月末、月次ベース。S&P 500 ヘルスケアセクター指数の予想PER/S&P 500株価指数の予想PERの推移。予想PERは向こう12カ月予想。** 利益総額は2025年12月31日時点における時価総額を実績PER（直近12カ月）で除した値。

出所：ブルームバーグ、AB

- ・したがってABでは、ヘルスケアセクターに対して強気な見方を維持しています。上述したバリュエーション面での魅力に加え、今後AIの積極導入によるイノベーションがヘルスケアセクターにとって追い風になると想定されるためです。
- ・高齢化や医療技術進歩により医療費が構造的に増加するなか、同セクターではコスト競争力が企業の優勝劣敗を左右するため、AIの導入が他業界より早く進むことが見込まれ、コスト削減や生産性改善による収益性的向上などが期待されます。
- ・具体的には、AI搭載手術用ロボットの普及や患者受付の迅速化、歯科処置の効率化、医師の診断精度向上や医療ミス防止への貢献など、多くの分野で導入が広がるとみています。

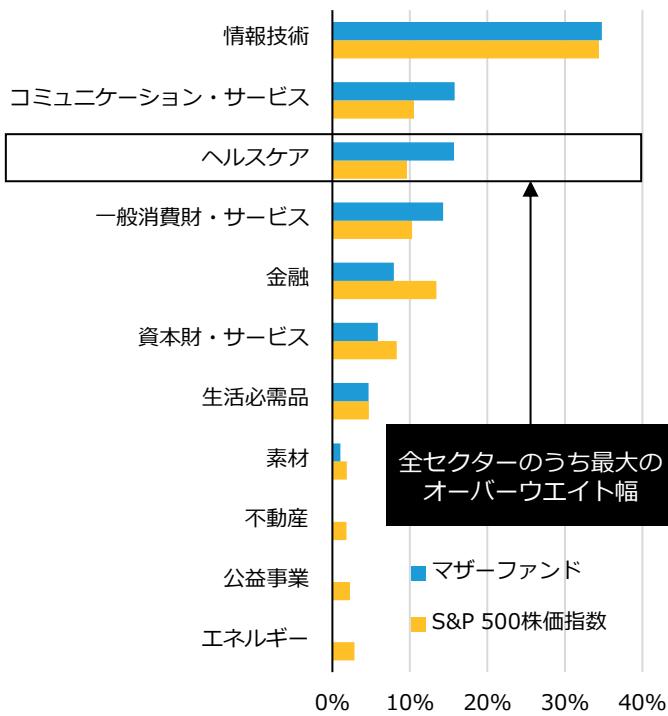


今後の投資方針および当ファンドのポジショニング：

外部環境に左右されにくい“持続的な成長企業”への厳選投資を継続

- ・株式市場において物色対象が拡大するとみられる環境下では、一部銘柄への集中度が高い市場全体への投資ではなく、卓越した製品/サービスを有する、外部環境に左右されにくい“持続的な成長企業”に厳選して投資を行う当ファンドの優位性が高まるとみています。
- ・こうしたなか、当ファンドは引き続き成長が見込まれるAI関連銘柄が多く含まれる情報技術セクター、コミュニケーション・サービスセクターへの配分を高く維持しています。
- ・その一方で、ベンチマークであるS&P 500株価指数に対し最もオーバーウエイトしているのがヘルスケアセクターです。同セクターにおいては、人工関節を主力とする医療機器メーカーのストライカーや医薬品卸売大手のマケッソン・コーポレーションにつき、今後の成長が見込める銘柄として昨年新規に組入れを行いました。これら銘柄について、下段でご紹介いたします。
- ・引き続き当ファンドでは、“持続的な成長企業”への厳選投資により、中長期的に安定したリターンを目指してまいります。

マザーファンドとS&P 500株価指数のセクター別配分比較（2025年12月末時点）*



ヘルスケアセクターの投資銘柄事例**

医療機器メーカー

ストライカー

保有比率: 1.9%



高齢化の進展が主力の整形外科事業に加え、神経血管事業に中長期的な追い風となる見込み。また、同社製品は術後の回復スピード向上や再手術率の低下など医療の効率化に貢献しており、医療制度改革が進行するなかでも選好されやすいとみている。

医薬品卸売

マケッソン・コーポレーション

保有比率: 1.8%



人口高齢化の恩恵を受けることに加え、医薬品卸売という外部環境に左右されにくいビジネスモデルが魅力。また、足もと取り扱う製品群を収益性の高いものへと徐々にシフトしており、今後の利益成長が期待できる。

マザーファンドはアライアンス・バーンスタン・米国大型グロース株マザーファンド。* 同一発行体で種類の異なる株式の比率は合算しています。株式部分を100%として算出しています。MSCI/S&PのGlobal Industry Classification Standard (GICS) の分類で区分しています。** 保有比率は2025年12月末時点におけるマザーファンドでの保有比率。

出所：ブルームバーグ、AB

緩和的な金融政策と企業の堅調な利益成長が株価上昇をけん引する見込み

当ファンドの分配方針

Aコース／Bコースの場合

原則として、毎決算時(毎年6月15日および12月15日。休業日の場合は翌営業日)に、以下の方針に基づき分配します。

- 分配対象額の範囲は、経費控除後の利子・配当等収益および売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。分配金額は、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して決定します。ただし、将来の収益分配金の支払いおよび金額について保証するものではなく、分配対象額が少額の場合等には、収益分配を行わないこともあります。

Cコース／Dコース／Eコースの場合

原則として、毎決算時(CコースおよびDコースは毎月15日。Eコースは2月、4月、6月、8月、10月、12月の各15日。休業日の場合は翌営業日)に、以下の方針に基づき分配します。

- 計算期末の前営業日の基準価額に応じて、以下の金額の分配を目指します。

| 毎計算期末の前営業日の基準価額 | 分配金額(1万口あたり、税引前) |
|---------------------|------------------|
| 11,000円未満 | 基準価額の水準等を勘案して決定 |
| 11,000円以上 12,000円未満 | 200円 |
| 12,000円以上 13,000円未満 | 300円 |
| 13,000円以上 14,000円未満 | 400円 |
| 14,000円以上 | 500円 |

- 分配対象額の範囲は、経費控除後の利子・配当等収益および売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。分配金額は、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して決定します。ただし、将来の収益分配金の支払いおよび金額について保証するものではなく、分配対象額が少額の場合等には、収益分配を行わないこともあります。

※ 每計算期末の前営業日から当該計算期末までに基準価額が急激に変動した場合等、基準価額水準や市場動向等によっては、委託会社の判断で上記とは異なる分配金額となる場合や分配金が支払われない場合があります。

※ 基準価額に応じて、分配金額は変動します。基準価額が上記の一定水準に一度でも到達すれば、その水準に応じた分配を継続するというものではありません。

※ 分配金を支払うことにより基準価額は下落します。このため、基準価額に影響を与え、次期以降の分配金額は変動する場合があります。また、あらかじめ一定の分配金額を保証するものではありません。

当ファンドの主な投資リスク

当ファンドは、マザーファンドを通じて主として株式などの値動きのある金融商品等に投資しますので、組入れられた金融商品等の値動き(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)により基準価額は変動し、投資元本を割り込むことがあります。したがって、元金が保証されているものではありません。当ファンドの運用による損益は全て投資者に帰属します。投資信託は預貯金と異なります。

基準価額の変動要因

株価変動リスク

経済・政治情勢や発行企業の業績等の影響で株価が変動し、損失を被るリスクがあります。

為替変動リスク

Aコース／Cコース(いずれも為替ヘッジあり)

実質外貨建資産について為替予約取引などを用いて為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではなく、為替相場の影響を受ける場合があります。また、対象通貨国と日本の金利差によっては、ヘッジ・コストが収益力を低下させる可能性があります。

Bコース／Dコース／Eコース(いずれも為替ヘッジなし)

実質外貨建資産に対し原則として為替ヘッジを行いませんので、基準価額は為替相場の変動の影響を受けます。

信用リスク

投資対象金融商品等の発行体が経営不安や倒産等に陥った場合に資金回収ができないリスクや、それが予想される場合にその金融商品等の価格下落で損失を被るリスクがあります。また、金融商品等の取引相手方に債務不履行が生じた場合には、損失を被るリスクがあります。

カントリー・リスク

発行国の政治・経済・社会情勢の変化で金融・証券市場が混乱し、金融商品等の価格が大きく変動する可能性があります。

他のベビーファンドの設定・解約等に伴う基準価額変動のリスク

当ファンドが投資対象とするマザーファンドと同じく投資対象とする他のベビーファンドでの設定・解約等に伴うマザーファンドでの組入金融商品等の売買等が生じた場合、当ファンドの基準価額に影響を及ぼす場合があります。

※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

緩和的な金融政策と企業の堅調な利益成長が株価上昇をけん引する見込み

収益分配金に関する留意事項

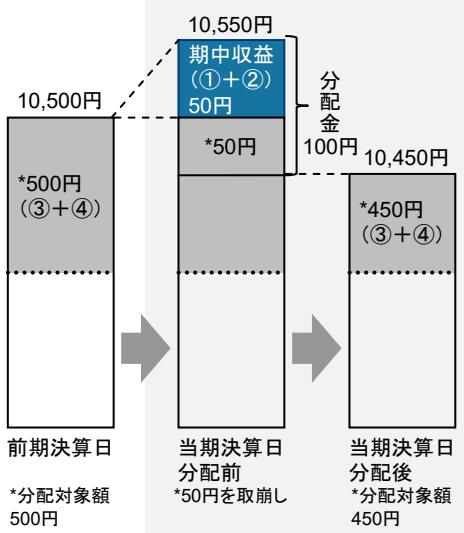
分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。



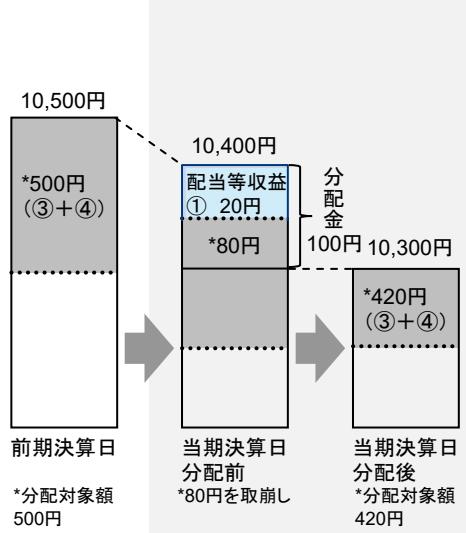
分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの收益率を示すものではありません。

(計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合)

(前期決算日から基準価額が上昇した場合)



(前期決算日から基準価額が下落した場合)



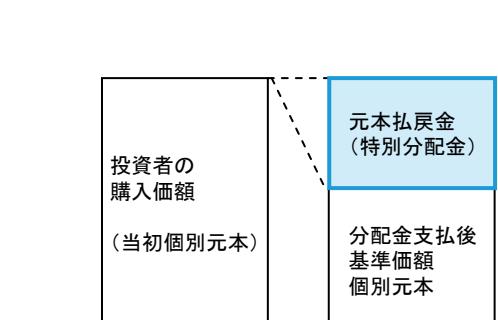
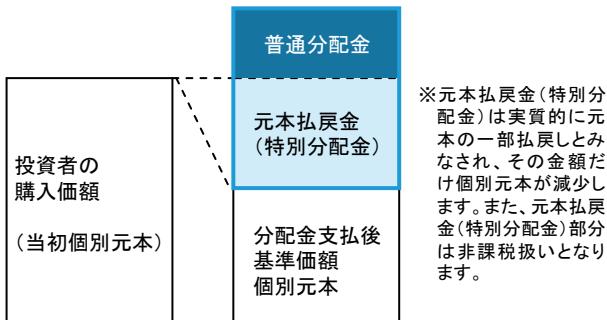
(注)分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご留意ください。

投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

(分配金の一部が元本の一部戻しに相当する場合)

(分配金の全部が元本の一部戻しに相当する場合)



普通分配金:個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本戻し金(特別分配金):個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本戻し金(特別分配金)の額だけ減少します。

(注)普通分配金に対する課税については、投資信託説明書(交付目論見書)をご参照ください。

当資料のご利用にあたっての留意事項

- 当ファンドは、マザーファンドを通じて主として株式などの値動きのある金融商品等に投資しますので、組み入れられた金融商品等の値動き(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)により基準価額は変動し、投資元本を割り込むことがあります。したがって、元金が保証されているものではありません。当ファンドの運用による損益は全て投資者に帰属します。投資信託は預貯金と異なります。
- 投資信託は預貯金や保険契約にはあたりませんので、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護対象ではありません。
- 登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 当資料は情報の提供を目的としてアライアンス・バーンスタイン株式会社が作成した販売用資料です。当資料は信頼できると判断した情報をもとに作成しておりますが、当社がその正確性・完全性を保証するものではありません。また、当資料に掲載されている予測、見通し、見解のいずれも実現される保証はありません。当資料の内容は予告なしに変更することがあります。当資料で使用している指数等に係る著作権等の知的財産権、その他一切の権利は、当該指数等の開発元または公表示に帰属します。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われる場合、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があり、その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 当ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てる必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受け付けが中止となる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。
- 当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社において投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめまたは同時に渡しますので、必ずお受取りになり、記載事項をご確認のうえ、投資の最終決定はご自身でご判断ください。

緩和的な金融政策と企業の堅調な利益成長が株価上昇をけん引する見込み

お申込みメモ

購入および換金

ニューヨーク証券取引所の休業日には、購入および換金のお申込みはできません。

申込締切時間

原則、購入・換金のお申込みにかかる、販売会社所定の事務手続きが午後3時30分までに完了したものを受け付けています。なお、販売会社によっては対応が異なる場合がありますので、詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

購入単位

販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

購入価額

購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。

購入代金

販売会社が定める期日までにお支払いください。

換金単位

販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

換金価額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。

換金代金

原則、換金申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。

換金制限

信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みには制限を設ける場合があります。

お客様にご負担いただく費用

お客様には下記の費用の合計額をご負担いただきます。なお、下記の費用は、お客様が当ファンドを保有される期間等に応じて異なるものが含まれているため、合計額を表示することができません。

直接的にご負担いただく費用

購入時手数料 購入価額と購入口数を乗じて得た金額に、販売会社が別に定める購入時手数料率(3.3%(税抜3.0%)を上限とします。)を乗じて得た額とします。

信託財産留保額 ありません。

信託財産で間接的にご負担いただく費用

運用管理費用 純資産総額に対して年1.727%(税抜年1.57%)の率を乗じて得た額とします。

(信託報酬) ※Aコース、Cコースおよびマザーファンドの投資顧問会社の報酬は、委託会社の受取る報酬の中から支払われます。

※ファンドの信託報酬は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期末または信託終了のときに、信託財産中から支払われます。

その他の費用・手数料

●金融商品等の売買委託手数料／外貨建資産の保管等に要する費用／信託財産に関する租税／信託事務の処理に要する諸費用等

※お客様の保有期間中その都度かかります。なお、これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を表示できません。

●監査費用／法定書類関係費用／計理業務関係費用(Eコースのみ)／受益権の管理事務に係る費用等

※純資産総額に対して年0.1%(税込)の率を上限として、信託財産より間接的にご負担いただく場合があります。かかる諸費用は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期末または信託終了のときに、信託財産中から委託会社に対して支払われます。

ファンドの主な関係法人

・委託会社
(ファンドの運用の指図を行う者)

アライアンス・バーン斯坦ン株式会社 www.alliancebernstein.co.jp

・投資顧問会社
(マザーファンド、Aコース及びCコースの運用の一部の委託先)

アライアンス・バーン斯坦ン・エル・ピー、アライアンス・バーン斯坦ン・リミテッド、

アライアンス・バーン斯坦ン・オーストラリア・リミテッド、

アライアンス・バーン斯坦ン・香港・リミテッド

・受託会社
(ファンドの財産の保管及び管理を行う者)

三井住友信託銀行株式会社

■設定・運用は

アライアンス・バーン斯坦ン

【商号等】アライアンス・バーン斯坦ン株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第303号

【加入協会】一般社団法人投資信託協会／一般社団法人日本投資顧問業協会／日本証券業協会／一般社団法人第二種金融商品取引業協会

緩和的な金融政策と企業の堅調な利益成長が株価上昇をけん引する見込み

販売会社(次頁につづく)

販売会社は、受益権の募集・販売の取扱い、一部解約の実行の請求の受付け、収益分配金の再投資ならびに収益分配金、償還金、一部解約金の支払いの取扱い等を行います。

■投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

| 金融商品取引業者名 | | 登録番号 | 日本証券業協会 | 一般社団法人日本投資顧問業協会 | 一般社団法人金融先物取引業協会 | 一般社団法人第二種金融商品取引業協会 |
|--|----------|------------------|---------|-----------------|-----------------|--------------------|
| アイザワ証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第3283号 | ● | ● | | ● |
| 株式会社あおぞら銀行 | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第8号 | ● | | ● | |
| あかつき証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第67号 | ● | ● | ● | |
| 株式会社秋田銀行 | 登録金融機関 | 東北財務局長(登金)第2号 | ● | | | |
| 株式会社足利銀行 | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第43号 | ● | | ● | |
| いちよし証券株式会社(IFA専用) | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第24号 | ● | ● | | |
| 株式会社イオン銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社) | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第633号 | ● | | | |
| 池田泉州TT証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 近畿財務局長(金商)第370号 | ● | | | |
| 岩井コスモ証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 近畿財務局長(金商)第15号 | ● | ● | ● | |
| SMBC日興証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第2251号 | ● | ● | ● | ● |
| 株式会社SBI証券 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第44号 | ● | | ● | ● |
| 株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券、 マネックス証券株式会社) | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第10号 | ● | | ● | |
| FFG証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 福岡財務支局長(金商)第5号 | ● | | | ● |
| 株式会社大分銀行 | 登録金融機関 | 九州財務局長(登金)第1号 | ● | | | |
| 株式会社大垣共立銀行 | 登録金融機関 | 東海財務局長(登金)第3号 | ● | | ● | |
| OKB証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 東海財務局長(金商)第191号 | ● | | | |
| 岡三証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第53号 | ● | ● | ● | ● |
| 株式会社鹿児島銀行 (委託金融商品取引業者 九州FG証券株式会社) | 登録金融機関 | 九州財務局長(登金)第2号 | ● | | | |
| 株式会社北九州銀行 | 登録金融機関 | 福岡財務支局長(登金)第117号 | ● | | ● | |
| 九州FG証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 九州財務局長(金商)第18号 | ● | | | |
| 株式会社紀陽銀行 | 登録金融機関 | 近畿財務局長(登金)第8号 | ● | | | |
| 株式会社京都銀行 | 登録金融機関 | 近畿財務局長(登金)第10号 | ● | | ● | |
| 株式会社京都銀行 (委託金融商品取引業者 京銀証券株式会社) | 登録金融機関 | 近畿財務局長(登金)第10号 | ● | | ● | |
| 京銀証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 近畿財務局長(金商)第392号 | ● | | | |

緩和的な金融政策と企業の堅調な利益成長が株価上昇をけん引する見込み

販売会社(次頁につづく)

販売会社は、受益権の募集・販売の取扱い、一部解約の実行の請求の受付け、収益分配金の再投資ならびに収益分配金、償還金、一部解約金の支払いの取扱い等を行います。

■投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

| 金融商品取引業者名 | 登録番号 | 日本証券業協会 | 一般社団法人日本投資顧問業協会 | 一般社団法人金融先物取引業協会 | 一般社団法人第二種金融商品取引業協会 |
|------------------|---------------------------|---------|-----------------|-----------------|--------------------|
| 株式会社熊本銀行 | 登録金融機関 九州財務局長(登金)第6号 | ● | | | |
| ぐんぎん証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2938号 | ● | | | |
| 株式会社埼玉りそな銀行 | 登録金融機関 関東財務局長(登金)第593号 | ● | | ● | |
| 株式会社佐賀銀行 | 登録金融機関 福岡財務支局長(登金)第1号 | ● | | ● | |
| 株式会社三十三銀行 | 登録金融機関 東海財務局長(登金)第16号 | ● | | | |
| 株式会社滋賀銀行 | 登録金融機関 近畿財務局長(登金)第11号 | ● | | ● | |
| 静銀ティーエム証券株式会社 | 金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第10号 | ● | | | |
| 株式会社セブン銀行 | 登録金融機関 東北財務局長(登金)第5号 | ● | | ● | |
| セブン証券株式会社 | 金融商品取引業者 東北財務局長(金商)第37号 | ● | | | |
| Jトラストグローバル証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第35号 | ● | ● | | |
| 株式会社十八親和銀行 | 登録金融機関 福岡財務支局長(登金)第3号 | ● | | | |
| 十六TT証券株式会社 | 金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第188号 | ● | | | |
| 株式会社荘内銀行 | 登録金融機関 東北財務局長(登金)第6号 | ● | | | |
| 株式会社常陽銀行 | 登録金融機関 関東財務局長(登金)第45号 | ● | | ● | |
| 株式会社スマートプラス | 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3031号 | ● | ● | | ● |
| 第一生命保険株式会社 | 登録金融機関 関東財務局長(登金)第657号 | ● | ● | | |
| 大和コネクト証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3186号 | ● | | | |
| 大和証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第108号 | ● | ● | ● | ● |
| CHEER証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3299号 | ● | ● | | |
| 株式会社千葉銀行 | 登録金融機関 関東財務局長(登金)第39号 | ● | | ● | |
| ちばぎん証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第114号 | ● | | | |
| 中銀証券株式会社 | 金融商品取引業者 中国財務局長(金商)第6号 | ● | | | |
| 株式会社中国銀行 | 登録金融機関 中国財務局長(登金)第2号 | ● | | ● | |
| 東海東京証券株式会社 | 金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第140号 | ● | ● | ● | ● |
| 株式会社東京スター銀行 | 登録金融機関 関東財務局長(登金)第579号 | ● | | ● | |
| 東洋証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号 | ● | | | ● |
| とうきんTT証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第32号 | ● | | | |

緩和的な金融政策と企業の堅調な利益成長が株価上昇をけん引する見込み

販売会社(次頁につづく)

販売会社は、受益権の募集・販売の取扱い、一部解約の実行の請求の受付け、収益分配金の再投資ならびに収益分配金、償還金、一部解約金の支払いの取扱い等を行います。

■投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

| 金融商品取引業者名 | | 登録番号 | 日本証券業協会 | 一般社団法人日本投資顧問業協会 | 一般社団法人金融先物取引業協会 | 一般社団法人第二種金融商品取引業協会 |
|--|----------|------------------|---------|-----------------|-----------------|--------------------|
| 株式会社鳥取銀行 | 登録金融機関 | 中国財務局長(登金)第3号 | ● | | | |
| 内藤証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 近畿財務局長(金商)第24号 | ● | | | ● |
| 株式会社長崎銀行 | 登録金融機関 | 福岡財務支局長(登金)第11号 | ● | | | |
| 株式会社西日本シティ銀行 | 登録金融機関 | 福岡財務支局長(登金)第6号 | ● | | ● | |
| 西日本シティTT証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 福岡財務支局長(金商)第75号 | ● | | | |
| 野村證券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第142号 | ● | ● | ● | ● |
| 浜銀TT証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第1977号 | ● | | | |
| PWM日本証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第50号 | ● | | | ● |
| 株式会社肥後銀行 (委託金融商品取引業者 九州FG証券株式会社) | 登録金融機関 | 九州財務局長(登金)第3号 | ● | | | |
| 株式会社百五銀行 | 登録金融機関 | 東海財務局長(登金)第10号 | ● | | ● | |
| 百五証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 東海財務局長(金商)第134号 | ● | | | |
| 株式会社百十四銀行 | 登録金融機関 | 四国財務局長(登金)第5号 | ● | | ● | |
| ひろぎん証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 中国財務局長(金商)第20号 | ● | | | |
| 株式会社広島銀行 | 登録金融機関 | 中国財務局長(登金)第5号 | ● | | ● | |
| 株式会社福岡銀行 | 登録金融機関 | 福岡財務支局長(登金)第7号 | ● | | ● | |
| PayPay銀行株式会社 | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第624号 | ● | | ● | |
| 株式会社豊和銀行 | 登録金融機関 | 九州財務局長(登金)第7号 | ● | | | |
| 株式会社北都銀行 | 登録金融機関 | 東北財務局長(登金)第10号 | ● | | | |
| ほくほくTT証券株式会社 (ファンドラップ専用) | 金融商品取引業者 | 北陸財務局長(金商)第24号 | ● | | | |
| 北洋証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 北海道財務局長(金商)第1号 | ● | | | |
| 株式会社北陸銀行 | 登録金融機関 | 北陸財務局長(登金)第3号 | ● | | ● | |
| 株式会社北海道銀行 | 登録金融機関 | 北海道財務局長(登金)第1号 | ● | | ● | |
| 松井証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第164号 | ● | | ● | |
| マネックス証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第165号 | ● | ● | ● | ● |
| 丸八証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 東海財務局長(金商)第20号 | ● | | | |
| みずほ証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第94号 | ● | ● | ● | ● |
| 株式会社三井住友銀行 (Aコース/Bコースのみ取扱い) | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第54号 | ● | | ● | ● |

緩和的な金融政策と企業の堅調な利益成長が株価上昇をけん引する見込み

販売会社

販売会社は、受益権の募集・販売の取扱い、一部解約の実行の請求の受付け、収益分配金の再投資ならびに収益分配金、償還金、一部解約金の支払いの取扱い等を行います。

■投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

| 金融商品取引業者名 | | 登録番号 | 日本証券業協会 | 一般社団法人日本投資顧問業協会 | 一般社団法人金融先物取引業協会 | 一般社団法人第二種金融商品取引業協会 |
|--|----------|------------------|---------|-----------------|-----------------|--------------------|
| 三菱UFJ eスマート証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第61号 | ● | ● | ● | ● |
| 株式会社三菱UFJ銀行 | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第5号 | ● | | ● | ● |
| 株式会社三菱UFJ銀行 (委託金融商品取引業者 三菱UFJモルガン・スタンレー 証券株式会社) | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第5号 | ● | | ● | ● |
| 三菱UFJ信託銀行株式会社 | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第33号 | ● | ● | ● | |
| 三菱UFJモルガン・スタンレー 証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第2336号 | ● | ● | ● | ● |
| 水戸証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第181号 | ● | ● | | |
| 株式会社宮崎銀行 | 登録金融機関 | 九州財務局長(登金)第5号 | ● | | | |
| むさし証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第105号 | ● | | | ● |
| 株式会社もみじ銀行 | 登録金融機関 | 中国財務局長(登金)第12号 | ● | | ● | |
| 株式会社山形銀行 | 登録金融機関 | 東北財務局長(登金)第12号 | ● | | | |
| 株式会社山口銀行 | 登録金融機関 | 中国財務局長(登金)第6号 | ● | | ● | |
| 株式会社横浜銀行 | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第36号 | ● | | ● | |
| 楽天証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第195号 | ● | ● | ● | ● |
| 株式会社りそな銀行 | 登録金融機関 | 近畿財務局長(登金)第3号 | ● | ● | ● | |
| 株式会社琉球銀行 | 登録金融機関 | 沖縄総合事務局長(登金)第2号 | ● | | | |
| ワイエム証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 中国財務局長(金商)第8号 | ● | | | |

※取次会社も含めます。

※販売会社によっては、一部コースのみのお取扱いとなります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

(50音順)

当ファンドの
最新情報は
こちら



※ABのサイトにアクセスします。